

創世記25章21－23節 「神の不思議な選び」

1A 行いによらない召し

1B 生まれる前の選び

2B 選びによる実

3B 選びの証し

2A すべての神のなさること

1B 人の主権という罪

2B 人の目を持つ角

3B 神を王とする王子

3A 憐れみによる選び

1B 良いお方

2B 取るに足りない者

本文

創世記 25 章 21 節を開いてください。私たちは、聖書通読の学びが、先週、24 章まで来ました。今日は午後礼拝で、25-26 章を一節ずつ見ていきます。今朝は 25 章 21-23 節に注目します。「²¹ イサクは、自分の妻のために主に祈った。彼女が不妊の女だったからである。主は彼の祈りを聞き入れ、妻リベカは身ごもった。²² 子どもたちが彼女の腹の中でぶつかり合うようになったので、彼女は「こんなことでは、いったいどうなるのでしょうか、私は」と言った。そして、主のみこころを求めに出て行った。²³ すると主は彼女に言われた。「二つの国があなたの胎内にあり、二つの国民があなたから分かれ出る。一つの国民は、もう一つの国民より強く、兄が弟に仕える。」」

1A 行いによらない召し

私たちは、これまでアブラハムの生涯を見て、彼がなぜ、私たちの信仰の父と呼ばれるかを学びました。彼は、神の約束をそのまま受け入れ、信じて生きていきました。それが、神を喜ばせるものでありました。そして、約束にしたがって生まれたのがイサクです。イサクについては、26 章で詳しく出てきますが、彼は、約束の地に留まるというのが、人生における大きな務めと言ってよいでしょう。約束のうちに留まることを、見ていきます。

そして、イサクからエサウとヤコブが生まれます。双子でした。母リベカが、双子を胎の中に宿していて、二人がぶつかり合っているのを、さぞかし驚きました。すると主が語られて、なんと、兄が弟に仕えると告げられたのです。それは、ヤコブが、イサクから相続を受けるといことです。ヤコブが、長子の権利を受けて、アブラハムとイサクに与えられた約束を受け継ぐということです。

1B 生まれる前の選び

25 章から、ヤコブの生涯が始まりますが、これから私たちは、とまどう話が連続で出てきます。これまでも、アブラハムが信仰的にずっとける話がありました。26 章には、イサクの生涯がありますが、そこでもずっとけます。けれどもヤコブについては、もうその次元ではありません。びっくりするようなこと、とんだ人間模様が次から次へと起こります。それで、一体、何が正しくて、そうでないのかが分からなくなってきました。

けれども、これだけを、主がリベカに語ら得た言葉だけを、覚えておけば、この通りになっているのだと納得するでしょう。「**一つの国民は、もう一つの国民より強く、兄が弟に仕える**」ということです。ヤコブにどれだけ性格上の欠点があろうとも、彼がどれだけ失敗しようとも、神の、このご計画が着実に実現していくのを見ていくのです。主の選びの確かさが、彼の生涯に現れていきます。

ロマ 9 章で、使徒パウロが、彼の生涯について、神がどうみなしておられるかを解き明かしています。「ロマ 9:10-13 **それだけではありません。一人の人、すなわち私たちの父イサクによって身ごもったリベカの場合もそうです。11 その子どもたちがまだ生まれもせず、善も悪も行わないうちに、選びによる神のご計画が、12 行いによるのではなく、召してくださる方によって進められるために、「兄が弟に仕える」と彼女に告げられました。13 「わたしはヤコブを愛し、エサウを憎んだ」と書かれているとおりです。」**

そうです、子どもが生まれていないのに、その時に既に、兄が弟に仕えると告げておられるのです。しかも、マラキの預言には、「わたしはヤコブを愛し、エサウを憎んだ」とまで言われています。これは、「**行いによるのではなく、召してくださる方によって進められるため**」と、あるんですね。

私たちは、神が恵みによって、信仰を通して私たちが救われたことを知っています。アブラハムは、行いとは別に、ただ主を信じたという信仰だけで、義と認められたことを見ました。救いは、行いによるのではなく、恵みによるもので、神の賜物です。そこには、神のご計画があるということです。神がまず選ばれて、それで、私たちに召され、そして、今の自分、すなわち神の子どもにしているのです。そして、すべてのキリスト者の働きも、神の選びと召しによって進んでいきます。

これは、私たち人間の自由意志を無視して進ませておられるのではありません。ロマ 8 章において、「8:29 **神は、あらかじめ知っている人たちを、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたのです。**」とあります。予め知っている人々を、定めておられます。ヤコブが、神の祝福の約束に対して、信仰をもって応答していくのを神は予め知っておられました。そして、エサウが、長子の権利を一杯のスープと引き換えにするような、俗物であることを予め知っておられました。神が、ご自身のことばに従うつもりもない人を、無理やり、その心をこじ開けて、みことばを受け入れるように強いて、それで選ぶということではないのです。逆に、神を求め、みことばを受け入れる人を、敢え

て頑なにして、信じないようにすることもあります。そういった、人の自由意思による営みを内包して、包み込んで、初めから、永遠のご計画を立てておられます。

2B 選biによる実

ですから、「選bi」という言葉にあるニュアンスが違います。何か選抜試験のような、自分の能力や才能が試されて、それで選ばれるのではありません。そうではなく、神に選bされたから、その召命、使命があつて、それで神の命令に聞き従つて、事を行う時に実を結ぶのです。「ヨハ 15:16 あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命しました。それは、あなたがたが行つて実を結び、その実が残るようになるため、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものをすべて、父が与えてくださるようになるためです。」

私たちの行いとは全く関わりなく、主が選bられて、召されました。ゆえに、その召しに応答する時に、良い行いの実を結ばせることができるのです。それをパウロは、私たちが神の作品だと呼んでいます。「エペ 2:9-10 行いによるものではありません。だれも誇ることのないためです。10 実に、私たちは神の作品であつて、良い行いをするためにキリスト・イエスにあつて造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました。」

パウロ自身がそうでした。彼があれだけの宣教の働きをすることができたのは、どうしてなのか？それは、彼がとてつもない罪を犯している時に、主イエスが彼に現れて、彼を忠実なしもべとして選bされたからです。「1テモ 1:12-14 私は、私を強くしてくださる、私たちの主キリスト・イエスに感謝しています。キリストは私を忠実な者と認めて、この務めに任命してくださったからです。13 私は以前には、神を冒瀆する者、迫害する者、暴力をふるう者でした。しかし、信じていないときに知らないでしたことだったので、あわれみを受けました。14 私たちの主の恵みは、キリスト・イエスにある信仰と愛とともに満ちあふれました。」分かりますか？彼が、神を冒瀆し、迫害し、暴力をふるっている時に、主が彼に現れたのです。そして、イスラエル人、王たち、異邦人に福音を届ける使徒として、召されたのです。考えられますか？こんなの、あつてはならないではないですか！

しかし、彼はその召しに応答し、あらゆる働きをしました。彼が、こう述懐しています。「1コリ 15:9-10 私は使徒の中では最も小さい者であり、神の教会を迫害したのですから、使徒と呼ばれるに値しない者です。10 ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの神の恵みは無駄にはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。働いたのは私ではなく、私とともにあつた神の恵みなのですが。」彼は、他の使徒たちよりも、多くの働きをしました。しかし、それは彼の行いではなく、神の恵みがともにあつたからです。

自分には何もない時、いや、神に反抗している時に、神は召されます。そして、その慈愛に触れて、悔い改め、そして、そこから出てくる神への愛が、その人を突き動かします。その結果、多くの

実を結びますが、それは、自分から出たものではなく、神が自分を通して行われたことです。行いがいいにも関わらず、召されたからこそ、実を結ぶのです。

3B 選びの証し

このようなかたちで、主は、選びのわざを行われます。それが、ヤコブであり、その子孫、イスラエルです。「イザ 41:8 **だがイスラエルよ、あなたはわたしのしもべ。わたしが選んだヤコブよ、あなたは、わたしの友アブラハムの裔だ。**」神が選ばれたので、彼らの行いに関わらず、神が彼らによって、ご自身を証しされます。「43:10 **あなたがたはわたしの証人、——【主】のことば——わたしが選んだわたしのしもべである。**」

そして驚くべきことは、そのイスラエルに対する召しに、神は、異邦人をもキリストにあって加えたことです。そしてキリストにあって、ユダヤ人と異邦人が一つになる教会を建てられました。「エペ 3:6 **それは、福音により、キリスト・イエスにあって、異邦人も共同の相続人になり、ともに同じからだに連なって、ともに約束にあずかる者になるということです。**」なので、異邦人であるにもかかわらず、キリストのうちにいる者たちも、選ばれた者と呼ばれているのです。「エペ 2:19 **こうい**」
わけて、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、聖徒たちと同じ国の民であり、神の家族なのです。」

私は、私たちの教会を見ても、とても不思議になります。みなさん一人一人が、自分の意志によらず、時には、自分の意志にも関わらず、ただ神の選びと召しによって、ここにおられるということです。私たちが何かをしたから、ではなく、主が立たせてくださり、一つにしてくださり、それで、動かされています。

2A すべて神のなさること

神の選びという真理は、私たちを悩まします。それは、神がある人たちを選び、他の人たちを退けるというのは、実に不公平ではないか？ということです。しかし、聖書ははっきりと、神が主権者であり、ご自分の望まれるままをことごとく行われ、その権利が神にはあるのです。天と地は神が造られ、治めておられるのですから。天においては、このような賛美があります。「黙 4:11 **主よ、私たちの神よ。あなたこそ栄光と誉れと力を受けるにふさわしい方。あなたが万物を創造されました。みこころのゆえに、それらは存在し、また創造されたのです。」**

1B 人の主権という罪

神が、ご自分のなされるままに事を行われることについて、反抗したのが悪魔です。そして悪魔は、蛇の形をしてエバを惑わし、それでアダムが罪を犯しました。その罪は、人に主権があるのだよという誘いです。「3:5 **それを食べるそのとき、目が開かれて、あなたがたが神のようになって善悪を知る者となることを、神は知っているのです。」**あなた自身が、神と同じように善悪を知るよう

になれるのですよ、と言って、神の言われることに背いたのです。

2B 人の目を持つ角

悪魔は、神とその勢力に反対しています。それで何とかして、人を引きずり込み、神に反対するように仕向けています。自分こそが最も大事であり、人が中心で、主権があるというそのかしをし続けています。終わりの日に現れる、偽の救世主は、人間中心主義です。「ダニ 7:8 私がその角を注意深く見ていると、なんと、その間から、もう一本の小さな角が出て来て、その角のために、初めの角のうち三本が引き抜かれた。よく見ると、この角には人間の目のような目があり、大言壮語する口があった。」反キリストが、角に喩えられ、そこには「人間の目のような目」があります。人の知能がかなり高いということです。そして、「大言壮語する口」とありますね。これは、神に対する冒瀆です。「黙 13:6 獣は神を冒瀆するために口を開いて、神の御名と神の幕屋、また天に住む者たちを冒瀆した。」自分が第一、自分、人間が最も大事、人間にこそ主権があると思っている人たちは、神に主権があるとするのが、最も嫌で、憎んでいるのです。

3B 神を王とする王子

人は、神にこよなく愛されています。それは、神のかたちに造られたからです。すべてのものを作られて、最後に人を造られて、ご自分に似せて造り、それで他の造られたものを支配しなさいと命じられたのです。神が王であり、その息子たちのように見ておられます。

ですから、人には創造性があり、すばらしい知能が与えられ、芸術的な感覚も与えられ、主の造られたものを管理する能力があるのです。しかし、そこにある自由意志、主体性、主権はあくまでも、神の主権と自由意志の中で与えられているものであり、神を恐れ、神に従い、神により頼んでいる中で、その愛と従順の中で、初めて、生かされてくるものです。人は、神に似せて造られたから、かえって悪魔のささやきのように、自分にこそ主権があり、選択があると、主張する偽りに陥ります。しかし、神こそ主権があるのです。

3A 憐れみによる選び

1B 良いお方

ですから、神に選ぶのも退けるのも、ご自分の願うままになされるのであれば、これほど恐ろしいことはないと思うかもしれません。聖書には、神は陶器師で、私たちが陶器であるという喩えもあります。どのように造られるかは、完全に神次第なのです。だから、恐くなるかもしれません。

しかし、覚えておいてください。ここで大事なのは、主権者である神は、正しく、公平で、憐れみ深い方だということです。自分よりもはるかに自分を知っておられる方が、こよなく愛して、ご自分の独り子さえも惜しまずに与えてくださるほど、愛しておられるということです。その方が、一切の主権を持っておられるということに気づくことが大事です。むしろ、小さな子が親の胸に抱かれてい

るかのように、その御手にすべてを任せることこそ、安心して、満たされ、自由でいられるのです。

主のご性質の筆頭は、「良い」ということです。ヘブル語でトブ(*tohu*)と言いますが、ご自分が造られたことについて、「これは良かった」と言われているところに、初めに出てくる言葉です。詩篇 73 篇の冒頭は、「まことに、神はいつくしみ深い」という言葉から始まります。この「いつくしみ深い」がトブです。良いお方なのです。金持ちの青年が、「良い先生」とイエス様を呼びましたが、主は、「マル 10:18 なぜ、わたしを『良い』と言うのですか。良い方は神おひとりのほか、だれもいません。」と言われました。神のみが良いお方なのです。

ここで誤解していただきたいくないのは、神は、すべての人が救われることを望まれているということです。「Ⅰ テモ 2:4 神は、すべての人が救われて、真理を知るようになることを望んでおられます。」「ヨハ 3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」しかし、人がその救いの呼びかけに応えず、自らを滅びに定めるという現実もあります。

2B 取るに足りない者

そして何よりも、自分自身のことを考えていただければよいと思います。選びについて、神のみこころを、私たちは計り知ることができません。それは陶器が陶器師に向かって、何で、こんなことをしているのか？と言っているようなものです。しばしば、「このような災いが起こるのを、神が許しておられるのであれば、私はそんな神を信じない。」という人がいますが、それは、「私は、神よりも賢い。私が神だったら、この神よりも賢く動く。」と言っているようなものですから。

けれども、自分自身のことを考えれば、神の選びを深く知ることができます。それは、「なぜ、こんな取るに足りない自分を選んだのか？」ということなのです。そう、神の選びは、その選ばれる者が優れているからではなく、むしろ、見た目が良くない者、小さい者、弱い者、愚かな者、取るに足りない者を選ばれるのです。

イスラエルに対して、主はこう言われました。「申 7:7-8 【主】があなたがたを慕い、あなたがたを選ばれたのは、あなたがたがどの民よりも数が多かったからではない。事実あなたがたは、あらゆる民のうちで最も数が少なかった。8 しかし、【主】があなたがたを愛されたから、またあなたがたの父祖たちに誓った誓いを守られたから、【主】は力強い御手をもってあなたがたを導き出し、奴隷の家から、エジプトの王ファラオの手からあなたを贖い出されたのである。」そうです、神が慕って選ばれました。そして、神が慕って愛するのは、ただ神がそうしたいのであって、彼らが魅力的だからではありませんでした。神の目には、高価で尊かったのです。

そして、キリスト者に対して、なぜ彼らを選ばれたかを、パウロは、はっきりと述べます。「Ⅰ コリ

1:26-28 兄弟たち、自分たちの召しのことを考えてみなさい。人間的に見れば知者は多くはなく、力ある者も多くはなく、身分の高い者も多くはありません。27 しかし神は、知恵ある者を恥じ入らせるために、この世の愚かな者を選び、強い者を恥じ入らせるために、この世の弱い者を選びました。28 有るものを無いものとするために、この世の取るに足りない者や見下されている者、すなわち無に等しい者を神は選ばれたのです。」この世においては、愚かな者、弱い者を選びましたのです。そして、神は恵みによって、愚かな者に神の知恵が現れ、知識を誇っている者たちを恥じ入させます。そして、弱い者を選び、神の強さを示し、力を誇っている者を恥じ入させます。そして、神だけに、イエス・キリストだけに力があり、知恵があり、栄光があることを世に知らしめているのです。

私たちは、だから自分の弱さを誇ってください。弱さがあるから、キリストの恵みを知りました。信仰に豊かにされます。そして自分が、キリストにあって愚かな者になることを恥じないでください。そこに、神の力が現れ、また神の知恵が豊かにされているのです。